教育功労

岡山大エグゼクティブアドバイザー

田中（たなか） 宏二（こうじ）氏（70）

廿日市市廿日市

岡山大が法人化した翌年の2005年から6年間、副学長を務め、大学の変革期を駆け抜けた。「もうこんな賞をもらう年になったのかな」と笑う。

長く在籍した教育学部時代は学生以外にも幅広く人材を育成。いじめや不登校など学校の問題が多様化する中、1999年には現職教員をスクールカウンセラーとして再教育する「夜間大学院」を全国で初めて開設した。

専門は社会や組織が人間に及ぼす影響を研究する社会心理学。岡山市の配食サービスを受ける高齢者を対象に行った調査では、普段コミュニケーションをとれる人が周りに少ない人ほど困難な場面でストレスに弱くなることを明らかにした。

「遠くの子どもよりも弁当配達の人の方が日常でのサポートは大きい。人間にとって人同士のつながりがベースだとよく分かった」。この研究で日本健康心理学会の最優秀・本明記念賞を受賞した。

昨年4月から大学の政策全般を助言するエグゼクティブアドバイザーに。「国際化と地域貢献。両者のバランスがうまくとれた大学を目指してほしい」と話す。

（阿部光希）

幅広い人材育成寄与

学術功労

岡山大大学院自然科学研究科教授

沈（しん） 建仁（けんじん）氏（51）

岡山市北区野田

専門は生化学。出身の中国杭州市から1983年に東京農工大大学院に留学。東京大大学院から2003年に教授として移った岡山大まで一貫して「自然界における光合成の仕組み解明」を研究してきた。今回の受賞に「とても光栄でうれしい」と笑顔を見せる。

最大の業績は植物の光合成による水分解で酸素や水素イオン、電子を発生させる酵素の構造解明。太陽光を活用し、環境に優しい燃料電池用の水素を生産する「人工光合成技術」の確立につながる成果として、11年に英科学誌ネイチャーで発表。米科学誌サイエンスの同年の科学十大成果にも選ばれた。「積み上げてきたことが評価された。一緒に取り組んでくれた学生や研究者に感謝したい」

植物は酵素内の触媒が変形を繰り返しながら光合成をしている。その変形後の構造を明らかにするのが今後の研究目標だ。

数々の功績とは裏腹に「研究には数え切れない失敗がある」という。しかし「我慢強く取り組めば、いつか実を結ぶ。そのことを若い人たちに伝えたい」。後進に注ぐ視線は優しい。

（内田圭助）

光合成の仕組み探る